

第4章 附属図書館



附 属 図 書 館

奈良先端科学技術大学院大学は平成3年10月に創立され、平成13年に創立10周年を迎えた新しい大学である。図書館を構築するに当たり学内において精力的に議論した結果、情報処理技術の目覚ましい革新の成果を取り入れた、電子図書館の構築を目指すこととなった。幸い、文部省の理解と支援を得て平成7年度に予算化が実現し、平成8年4月に正式に電子図書館（附属図書館）を開館する運びとなった。

本学では、各研究室の机上から自由に制約無く図書館を利用できるといった、利用者の立場に立った図書館を実現したいと考える教員達が、平成4年に「曼陀羅図書館プロジェクト」を組織し、新しい図書館構築のための研究を開始した。この研究成果は今後のマルチメディアに関する技術的な進展を重視し、マルチメディア対応の実用型電子図書館を目標とした計画案としてまとめられた。この計画案は、平成6年6月開催の評議会において承認され、全学的に実現に向けて取り組むこととなった。

予算化を見た平成7年4月には、欧米に電子図書館調査班を派遣し、海外の電子図書館プロジェクト等の、「技術的側面」、「法律的側面」、「経済的側面」、「ビジネス的側面」及び「社会的側面」に関する実地調査を行った。電子図書館を実現するには、特に技術的な課題として、画像・音声・文字を複合的に扱うマルチメディア技術、統合データベース技術、高速多重通信ネットワーク技術、学術資料の効率的電子化技術、使い勝手のよい検索、閲覧技術などの多様な技術の統合が必要となってくる。本学は幸いにも、電子図書館の構築に必要なインフラが整備されていた。すなわち1ギガビット/秒

のUltraNetworkを基幹とした高速な学内LAN（曼陀羅ネットワーク）、さらに、全学情報環境システム整備の一環として、教職員・学生にほぼ1人1台のネットワーク対応型ワークステーションが導入され、24時間、多様な情報処理・情報サービスが受けられる環境が実現していた。また、本学は最先端の3研究科（当初2研究科）からなり、学術資料の収集を3分野に特化することができ、電子化が比較的行いやすい内外の学術雑誌等をターゲットとすることができた。

平成8年3月に電子図書館システムが稼働開始、同年4月に正式に利用者サービス開始し、5年が経過した。その間、電子図書館の研究に本格的に取り組むため、平成10年6月には附属図書館研究開発室を設置した。また、平成11年10月より毎年、他大学等の電子図書館構築に関する支援策として、本学が蓄積したノウハウ等を広く知っていただくため、電子図書館学講座を開催し、平成13年3月には著作権利用許諾の推進、コンテンツの充実等のため、関西学術研究都市に在住する民間企業研究所等との間で京阪奈ライブラリーコンソーシアムを設立した。これは全国で初の国立の機関と民間企業との間のライブラリーコンソーシアムである。その他利用者に対する実効的なサービスの充実を図るため、逐次システムを改良しつつ運用しているところである。

開館当初は一般的に「電子図書館」という用語は馴染みの薄いものであったが、その間に国立情報学研究所（旧学術情報センター）をはじめ、京都大学、筑波大学等の大学が次々と電子図書館を開館した。本学がその先達としての使命を果たしているとすれば、幸いである。

（文責 末次美知夫）



